婦人衛生雜誌

大正十二年一月二十五日發行

第三百六十九號

婦人衞生雜誌

第三百六十九號目次

婦人衞生雜誌第三百六十九號
（大正十二年一月二十日發行）

講演

結核病の治療と豫防の要點

東京市療養所
副所長　遠藤繁清

今日、自分の專門と致して居ります結核の方面に付て、皆樣に御話する機會を得ましたことは、私の非常に光榮とし且つ悦びとする所でございます。

凡そ衞生の問題は、之を日常の實際生活に實現致しませんければ、何等の效果もありませぬ。其爲にはどうしても、家庭に於て內政を掌つて居られる所の御婦人、或は將來家庭の主宰者となるべき御方に聽いて戴いて十分に御了解を願はなければ、衞生思想の普及を圖り、社會の一般衞生の向上を望むことは不可能でございます。此意味に於て、私は今回御會から御申込がありました時に、淺學をも顧ず寧ろ自ら進んで御引受け致したやうな次第でございます。

扨、結核病は只今御話もございましたやうに、世界到る所に蔓延して居る病氣で、人類全體の約百分の三の人が此病氣に罹つて居るのでございます。故に各國共に之國家的の大問題として其對策に腐心して居る次第でございます。我日本に於ては死亡診斷書に明かに結核病と病名を附した者のみを見ましても、日本全國には一年に約十五萬人の人が死んだことになつて居ります、さうして東京市だけでも一萬人の人が結核病の爲に斃れます、所で御承知の通り、死亡診斷書に病名がはつきり現はれぬ場合が隨分ございますからして、是等をも計算に入れますと、尙

ほ一層大きな數になるのでございます。然らば現在結核患者の數はどの位あるかと申しますと、此的確な數は容易に知ることが出來ないのでありますが、獨逸のキルヒナル博士などの申します死亡數の十倍が患者數であると云ふ説が一般に認められて居るのでありますから、それに依りますと、我國には何時も百五十萬人、東京市に於ては十萬人の結核患者があるのでございます、即ち日本全國には丁度大阪市に匹敵する程の患者があり、又東京市の結核患者を一ケ所に集めて見ますと、丁度新潟市位が出來るのであります、さうして東市市に於ては二十二名毎に一人の結核患者がある譯でございます、斯の如く多數の患者ある病氣は外にはございませぬ、而も此病氣は經過が長く、金もかゝり、人にも嫌はれたり、自ら働かうとしても働くことが出來なかつたり、本人と致しましても家族としましても、實に悲慘極まるものであります、世間如何に多くの悲劇が此結核病の爲に起るかと云ふことは私が今更申上げる迄もなく、皆樣方はよく御存知のことで御座います。さうして是等の患者は主として有爲の青年又は壯年者でありますが故に、若し其人達が健康でありますならば大に働ける筈でありますが、それが働かぬのでありますから國家經濟上の損害も莫大なものでございます、今假に一人の患者がありまして、其人が働けば得らるべき生産力が病氣の爲めに得られないと致しまして、其損害を假に一日平均壹圓、澤山働く人もありますし健康でも一向働かぬ人もありますから之を平均しまして一日壹圓の生産力が缺乏したと假定致します、又一人の患者がある爲に其療養に一日平均壹圓づゝかゝると假定致します、中には拾圓以上かゝる人もあり、拾錢の療養も出來ない人もありますけれども、之を平均致しまして一日壹圓と致します、さうすると生産力の缺乏と療養費のかゝりとで倂せて貳圓の損害になります、さうしますと、一人で一年に七百參拾圓の損害になる、故に東京市に於ては常に拾萬人の患者があると見て、此東京市

の被る損害は一年には七千三百萬圓、日本全國百五拾萬の結核患者に對しては拾億九千五百萬圓、凡そ拾壹億圓の損害になるのであります。卽ち我國の歲出拾六億圓に對しましては十分の七に相當する額でございます、斯樣な大きな金額が吾々の知らない間に消えて居ると云つても宜しいのであります。皆樣、若し我國に年々拾壹億圓の金が餘分に入つたと假定したら如何でございます、國民の負擔は七割を減ずることが出來るのであります。

然からば此結核の慘害をどうしたらば減ずることが出來るかと申しますと、言ふ迄もなく既に發病して居る人、卽ち患者を完全に治療して再び社會に活動し得るやうにしてやること、もう一つは此病氣に罹る人を少なくすること、卽ち治療と豫防を完全にすると云ふことであります、先づ此治療法に付て大略通俗的に申上げて見やうと思ひます。

結核病を極く短日月の間に治して仕舞ふやうな藥、卽ち此藥さへ用ひれば必ず全治させることが出來ると云ふ特效藥は遺憾ながら今日の所一つもございませぬ、若し今日左樣な妙藥があると云ふならば、それは山師であるか或は無智の人でございます、さう云ふ風な藥がない、特效藥がないと云ふならば、それでは結核は癒らぬではないか、不治の病であると云ふ御考が起るかも知れませぬが、それは反對でありまして、寧ろ結核病は存外に癒り易い病氣であると申上げて宜いのであります、何等の治療を加へずして天然自然に癒る人が澤山にあります。我國に一年拾五萬人も死ぬと云ふことを先刻申上げ、さうして今度は結核は癒り易い病氣であると申しますと前後矛盾して居る話のやうになりますが、併し是は決して根據なしに申上げるのではございませぬ、色色の病氣で斃れた人の死體を解剖して見ますと大人ならば殆んど百人が百人立派に結核病の變化がある、然しそれが既に癒つて居て、今日は唯其痕跡を留めるばかりだと云ふ人が澤山にあるのでございます、さう云ふのは明かに自然に癒つた、卽ち自然治

癒であります、老人になつて死ぬ者それは何の病氣で死んだのでも老人になつて死んだ身體を解剖して見ますと此自然治癒をなして居る痕跡が大概の人に於て見られるのであります、又私共の治療經驗から申しましても格別特效藥と云ふものを用ひずして全治させることが出來るのでございます、正直の所、私共の力で治すのではないのでございます、天然自然に癒るのでございます、自然が治して下さるのであります、唯私共は此自然治癒を出來るだけ巧にやる、自然治癒を成るべく促して之を手傳つてやると云ふことを努むるに過ぎないのであります、言換へて見ますと、神樣の御手傳をするに過ぎないのであります、別に何等奇拔な療法を用ひるのではない、丁度佛教に所謂正法に奇特なしで、少しも奇拔なことをやらずして全く天然自然に適ふ法則を尊重してそれに則つた療法を行ふのみであります、勿論何か更に良く效く藥、一二回注射すれば直ぐ癒ると云ふやうな藥が出來れば仕合でございまして、世界の多數の學者はさう云ふことに向つて熱心に研究して居るのではありますけれども、今日の所まだ成功しては居りませぬ、併し大勢えらい方が熱心に研究して居るのでございますから、或は近き將來に於て世界を驚かすやうな療法が發見されるかも知れませぬ、併ながら、さう云ふ良いものが出來ましても此自然治癒とは全く關係のない別な方法で治すと云ふことは恐らく不可能のことであらうと思ひます。然らば現に私共の採つて居る方針はと申しますと、それは患者の生活狀態に注意して患者の日常生活を出來るだけ生理衞生に適ふやうにする、さう云ふ風に改善して身體の抵抗力を高める、其強き體力に依つて結核菌を壓倒し征服し、又一方には既に破壞をした所の病變部を修理するに都合の好いやうな方法を採る、是は名を付けて言ひますと衞生攝生療法と申します、此目的を達するには勿論色々の藥劑も必要であります、又理學的の方法も必要であります、時さしては外科的手術も必要であります。所で此攝生法、即

ち療養法に重きを置くと云ふやり方、是は一見非常に迂遠な方法のやうでありますけれども、今日に於ては之に勝る療法は他にはございませぬ、今後如何なる良い方法が發見せられましても、此衞生攝生療法を無視して、そんなものはなくても宜いと云ふやうな時代は決して來ないと考へます、飽く迄も此攝生療法を主とし他の療法を從として行ふ必要があらうと信じます、然るに世人は兎角所謂特效藥で治さうと考へて居ります、さうして、ありもしない特效藥を一生懸命で漁り求めて、肝心な療養法を行ひませぬからして、癒るべき時期に癒らずに仕舞ふのでございます。

一體今日の結核は昔の結核に較べまして非常に良性になつて居ります、殊に都會の住民に起る所の結核病は可なり癒り易い良性なるもので發病の初からして、是は惡性で到底救ふべからずと云ふやうな病勢を有つ人は先づ殆どないと言つても宜い、あつても極めて稀でございます。それ故大概の人は病氣のまだ左程進行しない中に正しい療養法を眞面目に勵行しさへすれば、殆ど百人が百人全治して將來に活動し得るやうになるのでございます。否全治の後は發病前よりは更に健康になる人が珍しくないのであります。故に我國に於て年々拾五萬人の人が結核病で斃れると申しましても、それは本來の病勢が激しくて到底救ふことが出來なかつたと云ふのではありませぬで、詰り色々な事情からして癒るべき中に治さなかつたと云ふに過ぎないのでございます。

どうしてさう云ふことになるかと申しますと、之には色々種類がございます、大別して申しますと、先づ第一に適當な療養をする資力の無かつた人、此部類の人は中に澤山にございます、第二には資力はあつたけれども氣の付くことが非常に遲かつた、所謂手遲れになつたと云ふ人々。之も中々澤山にあるのでございます、第三には早く氣も付き又資力もあつて相當に療養したのではあるが遺憾ながら其療養法が過つて居つたと云ふ人々。是も澤山にございま

す、第四には如何なることも出來るやうな境遇にあつた人でも意思薄弱である爲に眞面目な療養法を續け得なかつたと云ふ人、是も少なくないのでございます、斯樣に理由は色々ありますが、要するに正しい療養法を初期の中からやらなかつたが爲である、と申して差支ないのでございます。尤も此拾五萬人と云ふ中には極く小さい小兒、乳吞兒なども入つて居りますから、さう云ふのは事實に於て惡性であつたのもございます、又大人でありましても極く田舍の人が初めて都會に出たやうな場合に罹つたのは是も惡性でございます、又不幸にしてあまり濃厚な傳染を受けた人も惡性の經過をとります。けれども大多數に於ては只今申上げましたやうに初期から正しい療養さへすれば死なゝくつても宜かつた人々でございます。故に資力の無い者に對しては社會が之に療養の途を與へ、知識を缺る人には正しき療養知識を授け、意思薄弱の人には信念と勇氣とを與へるならば、結核死亡率を餘程減らすことが出來るに相違ないのでございます。

然らば正しい療養法とは具體的には如何なる事かと申しますと、之を一々詳しく述べるは容易でございませぬから極く簡單に箇條のやうに申上げませう。

第一には此療養法の精神を患者自身は勿論、家族の人もよく理解して、確信と勇氣とを以て療養すると云ふことが必要であります。

第二には精神修養に依つて溫良の性質を養ひ、周圍の人に對して常に感謝の念を有ち、不平不滿の考を去つて常に希望と感謝とに生きる考をする、ちよつと考へますと斯樣なことは醫學其ものから餘程遠ざかつて居るやうに聞えますけれども、斯樣に精神的方面に基礎を置いた療養法でなければ本當の療養とは決して申せないのであります、私は今日此會が修養會と衞生會と合併して居られると云ふことを承りまして餘程面白いことに考へ居る次第でございます。

第三には大氣療法を勵行することが必要であります、大氣療法と云ふのは常に戸外の新鮮の空氣に親むと云ふ療法であります、是は後に詳しく申します。

第四には食物に付て十分の注意をする、卽ち食物の品質を選ぶことゝ、其取方に付ての注意を拂ふこと、是等も可なり必要のことでありますが、實際に於ては往々誤解して居られるかと思ひます。

第五には先づ安靜を守つて病氣を鎭め、病氣が鎭まつた後に初めて徐々に運動を行ひ、追々と身體を慣らして今後の活動に備へると云ふ方針が大事であります。

第六には紊りに體力を消耗することを防ぎ、體力を出來るだけ體内に充實し、其旺盛なる體力を以て結核菌と戰ふと云ふことが必要であります。

第七には日光、空氣、冷水等を以て此皮膚を强棟する、此ことを等閑に附しますならば大氣療法などは出來ませぬ。

第八には肺其ものゝ安靜を圖ることが必要であります、卽ち非常に咳が强く出る人ならば咳を鎭める方法を取る、之にも色々方法がありますが、又紊りに深呼吸などをしない、大きな聲で歌などを唱はんとか話を禁ずるとか其外に色々醫者の側からなすべき方法があるのでありますが、醫者の採るべき方法に付きましては今日此處に申上げませぬ。

尙ほ細かいことに入りますと晩迄かゝつても申上げ切れませぬから此位にとゞめますが、先づ只今申上げましたやうな箇條を完全に御實行になればなる程癒り方は早いのであります。併し實際に於ては之を完全に御實行になる方は餘り澤山はありませぬ、それはむづかしいから出來ないと云ふよりは、斯樣な注意をすることがどれだけ必要であるか、どれだけ有效であるかと云ふことがまだ世人に徹底しないからであらうと思ひます、食物に付ては非常にやかましい人、滋養品々々々と云つて隨分食事に付てやかましい人もありますが、併し非常に良い天與の滋養品と云ふべき空氣に對しては全く無頓着で、不潔

極まる空氣の中に住んで其害を知らぬ患者があります、又空氣の良い所と云つて海岸などに轉地致しましても、風に當つてはならぬと云ふのですつかり窓や障子を閉ぢ、わざ〳〵惡い空氣を製造して其中に住んで居られる方があります。又運動が必要だと云つて安靜を要する有熱患者が無理に杖をついたりして運動し、次第々々に病氣を惡くして居られる方がございます、又風を引かないやうにと云つて、厚着をする、さうしてどん〳〵皮膚を弱くして盛んに風を引くやうな人がある、又は何等不足がない、吾々が見て、もつたいないやうな立派な生活をなさる人でありながら常に不平不滿で居る人がございます、或は家人と常に衝突して時々癇癪玉を破裂さして其都度熱が出たり、喀血したりする人がございます、或は日光浴が良いと云ふやうなことを、何か婦人雜誌などを見ますと早速之をやる、所が正しい知識なしにやるのでありますから、往々にして失敗る、唯要するに日向ぼつこをやれば宜いのだらうと云ふやうなことでやる、而も日向に一時間も二時間も寢て居つて、甚しきは眠て仕舞ふやうな人がありますが、さう云ふ人が必ず後で惡くなるのであります、或は溫泉だとか海岸だとか云ふ土地で何でも氣の向く儘に遊びさへすれば宜いと云ふやうな考で、盛んに遊んで盛んに惡くする人がある、斯樣な具合で御本人は是で完全な療養法であると思つて居りましても實際に於いてまるで違つて居ることがあるのでございます、甚しきに至つては、非常に金をかけて態々死の旅をやつて居ると云ふやうな人があるのでございます。

大氣療法に付きましてもう少し詳しく申上げます、是は成るべく病室の窓を開放して措くと云ふ主義であります、或は戸外に、即ち庭へ寢臺を出して其處に寢て居る、さうして夜も成るべく外氣の通ふやうに寢室の廻轉欄間などは開放して置き、戸外の空氣の通ふ部屋に寢ると云ふ主義であります、詰り年百年中新鮮なる良い空氣に親しんで居ると云ふ方

法を取るのであります、是は非常に有效でありまして、是非斯うしなければならぬのでありますけれども、まだ今日は遺憾ながら十分普及して居らぬのでございます、で一般の患者は是とは全く正反對で肺病は暖くしなければ癒らぬもの、寒い風に當れば惡くなる、寒氣は非常に危險なものである、斯樣な考を以ちまして室を閉ぢ厚着をし室内を不自然に暖かにし、癒るべきものを癒らないやうにして居るのでございます。從つて溫暖主義を採る人は兎角寢汗を強くかきます、熱が容易に下らぬ、呼吸困難を感じ、食慾は出ない、で秋から冬にかけまして私共が此市内の患者の所へ初めて行つて見ますると、大體は障子を閉ぢ、場合に依つては屏風などを立廻し、火鉢を入れてそれに金盥の中に湯氣が盛んに立つて居る、或は蒸氣ストーブで以て蒸氣を立てる、其部屋は濛々とするやうな蒸氣が籠つて居る、さうしてむかくする惡臭が滿ちて居ります、肺病になりますと、普通の人以上に新鮮な良い空氣を要求する時に當つて、吾々健康者すらも閉口するやうな惡い空氣を當てがつて置くと云ふことは非常な矛盾でありまして、斯の如くして肺病を治さうとするのは木に依つて魚を求めるの類であらうと思ひます、東京市療養所に於ては比較的重症患者が多いのでありますから、普通ならば寢汗をかく人は非常に澤山あるだらうと思はれるのでありますが、實際に於ては寢汗をかく患者が非常に少ないのでございます、是は全く大氣療法の賜物であります、自宅に於ては必ず汗をかいたと云ふ人が療養所に入つて暫くすると汗をかかなくなる或はかいても極く少なくなる。療養所では冬と雖も大概の窓は開ひて居ります、夜も南側の廻轉窓だけは必ず開けてあります、寒中の夜でも開けてあります、從つて零下何度と云ふ寒さになる事があります、けれどもそれが一向害が無いのであります、さうして秋から冬にかけて患者の成績が非常に良く、死亡する人が少なくなるのであります、(表を示す)是は大正九年・十年・十一年の各月死亡率で

あります、大正九年の九月から書いてありますが、此時分は比較的死亡者が多かつたが寒くなるに從つてずつと減つて來る、又暖かくなるに從つて殖えて來る、夫から十一月・十二月・一月・二月・三月とずつと減つて來ます、それから又暖くなるに從つて增す、此增方は非常に多いのであります、大體春から夏にかけては死亡者が多く寒くなるに從つて減つて來ると云ふ傾向であります、多分大正十二年の正月あたりも死亡者が少ない事と考へて居ります、此材料のみでなく、世界全體から云ひましても、結核患者の死亡率は春夏に於て高く、秋冬に於て低い、北海道の如き寒い所に於てもさうであります、それ等の關係から致しまして、寒さ其ものは障らないものであると云ふことが出來ます、私も數年前には肺病患者でありました、で病勢の最も重かつたのは大正六年でありまして、其當時私は北海道の小樽に居りました、さうして、其秋から冬にかけて矢張り此大氣療法を實行したのであります、雪が降り出さない前は戸外に寢臺を出して寢て居りました、勿論夜は家の内へ入りました突然吹雪などが來ましては大變ですから‥‥部屋に居ります時にも吹雪がない以上は窓をすつかり開けて居りました、さうして如何に寒くとも自分の爲に火鉢を入れたことはありませぬ、他所の部屋にはストーブが入つて居りましても私の部屋には御免を被りました、でありますから朝など大抵枕頭の藥瓶が凍つて居りました、それで私の部屋は非常に寒いのでありますから、家の者は私の部屋に來るのがつらい程でありましたが、其間に非常に成績が良く、どん／＼癒つて行つたのであります、私共の扱つて居ります患者は何れも寒さに對しては健康な家人より遙かに強いのであります、健康者が辟易するやうな寒さにも平氣であります、斯様に皮膚が丈夫になつてこそ初めて大氣療法が實行出來るのであります、又大氣療法を實行して居れば自然に皮膚が強くなるのであります、即ち兩々相待つて良くなるのであります、で皮膚の強練と云ふことは

結核療養法としての先決問題であると信じて居ります。餘り此療養の方面が長くなりますと後の話が出來ませぬから豫防法の方に移ります。

で結核には是非罹りたくないと云ふ考は皆樣御有ちになつて居る、どなたも結核になつて見たいと云ふ方は無いと思います、結核を恐れ、肺病患者を厭ふと云ふ點に付ては至れり盡せりであらうと思ひます、甚しきは結核患者があると聞きますと、其家の前を通ることもまあ遠慮すると云ふ方があります、或は骨肉の間でも結核患者は敬遠すると云ふことすら稀でないのであります、或は結核療養所と云ふ此社會に有益な事業に對して反對せらるゝ識者？するもあります、斯樣に結核を恐れ結核を避けやうとする念が盛んであるに拘らず、結核患者が續々出るのはどう云ふ譯であるか、殊に不思議なことは、結核菌などは一匹でも近付けないと云つたやうな先生が何時の間にか結核病に罹つて斃れると云ふことがありますが、實に不思議でございます、斯樣に結核を蛇蝎の如く恐るゝに拘らず、結核病がどん／＼起ると云ふならば、それ等の豫防法の何處かに大きな穴が明いて居るに相違ないと思ふのであります、實際、現今多數の人の信じて居る所の結核豫防法には可なり大きな誤解があると思ひます、然らば如何なる點が誤であるかと申しますと、是は一般の方が潛伏結核に對する知識を缺いて居る點であると考へます、世人は自身の體内には結核菌が居らないと信じて居ります、結核菌などは一匹も持合せて居らぬと御考へになつて居るのでございます、それ故外部から結核菌の入つて來るのを防ぎさへすれば安全であると斯樣に信じて居られるのであります、それで常に外部の結核菌に對しては嚴重に警戒して居られるけれども、御自分の體内にある所の結核菌には一向御氣が附いて居らぬのであります、是が抑ゝ間違の根源であると存じます。御見受した所が皆樣は皆御丈夫で居らつしやる、肺病患者ではあられません。さうして皆樣は御自分が肺病でないのは、未だ曾て

結核菌などを吸つたことがない爲であると斯く考へる方が相當多からうと思ひますけれども、實際に於ては是は反對であります、皆樣は是迄に度々結核菌を既に御吸ひになり或は御飲みになつて、體內には良性の潛伏結核を有つて居られるのであります、即ち皆樣が聞くさへおいやだと云ふやうな結核菌は既に皆樣の體內に忍んで居るのでございます、即ち城の外に居るとばかり思つて居つた所の敵は既に間者となつて、城の中に忍び込んで居るのでございます、若し外部の敵にのみ氣を奪はれて、此內部の敵に備へませぬならば何か御自身の身體に弱點の起つた場合に、其動機に乘じて內亂が發して金城鐵壁も陷落するやうな事になるのでございます。結核菌は現在到る所に散在して居りますから、少年期から青年期にかけて、大抵の人は其傳染を被つて仕舞ひます、殊に都會に住む人で、大人になる迄結核菌を一度も受けず、結核菌の侵入を免れ通すと云ふやうなことは不可能でございます、是は歐米文明國に於ても不可能とされて居る所でございます、言換れば大都會に住む大人は殆ど全部有菌者でございます。此ことは結核の反應を檢査して見たり或は解剖をして見まして疑ふことの出來ない證據が擧つて居るのでございます、先程もちよつと申上げましたが、他の原因で死んだ死體を解剖して見ましても、淋巴腺なり肺臟なりに結核性の變化若くは癒つた痕跡を認むるものが多數にございまして、大人の死體は百人が百人に於て之を認むるのでございます、斯樣な調査は西洋に於て澤山にございますが、日本の大學等に於ける調査でも此事實を證明し得るのでございます。又反應檢査では十四五歲までの中に過半數、百人に對して七十人八十人の者は反應が現はれるやうになつて仕舞ふのであります、即ちそれ迄に菌の侵入を被つて潛伏結核所有者となつて仕舞ふと云ふことが立證せられて居ります、大人に於ては殆んど皆反應を呈します、無病强健な人に於ても此反應は陽性に現はれます、勿論一回檢査して反應が陰性の場合もあ

りますが、必要な回數だけ繰返すならば大概陽性に現はれるのでございます。して見ると結核菌の侵入を受けましても、それが必ず結核病と云ふいやな病氣を起すと定まつて居るのでなく、吸ひました結核菌が餘り多數でないならば、良性の潛伏結核を造るに過ぎないのであります、其人の健康には少しも差支ないのであります、それ故結核の傳染と云ふことと、結核の發病と云ふことゝは別に考へなければならぬことゝ信じて居ります、是は別箇の問題であるのに、此二つを混同することが抑〻過の元であると考へます、我國で小さい子供を除いた殘りの國民、即ち三四千萬人の人は何れも既に潛伏結核を有つて居る人でございます、既に傳染濟みの人々であります、さうして其中で患者として治療を要する人數は先程申しました如く約百五十萬人でございます、其他の多數の人は健康なる潛伏結核所有者でございます、斯樣に考へますと、等しく結核菌を有つて居りながら、多數の人は健康を保つことが出來て肺病には成らずに濟み、唯少數の人のみが結核病を起して肺病患者になるのであります。是等の小數の不幸の人達には、何か特別な事情即ち發病せざるを得ない色々な動機があるのでございます、注意すべきは此發病の動機と云ふことでございます。中年以後に起つて來る所の肺病は、多くは小兒期に於て既に傳染して居る所の潛伏結核が、或機會に爆發して來たものであります、決して大人に成つて新たに傳染して病氣が起ると云ふのではない、さう云ふ場合があるとしてもそれは極めて稀な場合で非常に濃厚な傳染を受けた時ばかりである、普通に於ては新たに傳染が起ることはないといふのが近時の定論であります。

故に少し位結核菌の傳染を被つて居りましても、さう云ふ發病の動機さへなければ丈夫で過すことが出來るのであります、然らば發病の動機となるものは何かと申しますと(表を示す)是は療養所に於ても調べました、療養所の患者に付きまして先づ傳染の

心當りの有るものと無いものとを調べたのでありますが、傳染の心當のある者は百人に對して三十七人半、心當のちつともない者の方が數が多く百人に付き六十二人半であります。女のも大體さう云ふことになつて居ります、此心當のあると云ふのは實は二十年前に肺病の友人を一寸見舞に行きましたなど云ふのをも數へ込んでありますから實際殆ど關係が無いやうな場合も含んで居りますが、斯樣に心當のない者の方が遙に多いのに、此發病の動機のない者は少ないのであります、發病の動機のある者は百人に對して男子では七十五人九分、女子では八十一人。動機の不明な者、是は其人の日常の生活狀態を尙ほよく調べますと一層減つて來るに違ひないと思ひます、下層の人達は一體衞生思想がないのでありますからして、發病の動機となるべき惡い生活をも其人達は有害とは感じませぬから原因は何にもありませぬと答へて仕舞ふ、之には澤山見逃しがあります、詳しく調べれば調べる程是は減つて發病動機の明かな人が增して來る筈であります。

それで發病の動機としては第一に過激の勤勞又は運動、過激な運動と云ふのは學生などで色々な選手になつたり、或はマラソン競走をやる、さう云ふやうなことは往々過激の運動になります。次に過激の勤勞と云ふのは生活困難の爲に非常に無理な夜業をすると云つたやうなことを此中に入れてあります、男患者百人の中で六十人七分、非常に過激と云ふのだけを擧げても斯ふ云ふ數になつて居ります、それから精神的過勞、是は詰り非常に心配事や煩悶があつたと云ふやうな人で是は男子に於ては割合に少なく出て居りますが六人八分、それから放蕩、放蕩と云ふことは私は是々の放蕩を致しましたと云ふことは容易に人が申しませんけれども明かに自白した人だけでも五人三分であります、實際に於てはまだありましやう。男子に於ては斯う云ふ動機が實際仲仲あると思ひます。病氣の方面に於てはインフルエンザに罹つて引續いて此病氣が起つたのが十八人一

分あります、猶其外の疾病、是は色々あります、長い間胃腸加答兒をやつたとか、或は腸窒扶斯をやつた後がどうも十分に恢復しなかつたとか、或は痲疹とか百日咳とか、普通寒冒の非常に長延ひたものなどである、それ等が二十六人九分、それから大酒家、大酒の爲に發病したと自身も認める樣な人が九人三分あります、其他職工などで刺戟性の瓦斯を吸つたとか胸部を打つたとか云ふのも少數であります（表を示す）女子に於ても大體似て居りますが矢張り過激勤勞又は運動是が一番多い、それから精神的過勞が百人中五十三人、是は男子よりも餘分に數が出て居ります。御婦人には非常に心配事をなさる場合が多い。それから放蕩、女子には放蕩をしましたと云ふ人は一人もありませぬでしたが、實際は絶無ではありますまい。それからインフルエンザ是は百人に付二十四人あります其外の疾病、是は詰らぬ病氣はぬき、餘程體力を弱めるやうな病氣のみ數へたのですが、是も二十四人ございます、それから大酒、是も中流以下などには實は相當あるらしいですけれども告白する者が無かつたのです。女子に於て違ふ所は分娩とか流産とかひどい惡阻と云ふやうなことが動機になつて居ります、之が約一割を占めます。要するに體力を甚しく消耗して、然かも之を補ふ力が十分でないと云ふやうな生活狀態が長く繼續致しますれば潛伏結核が暴發して來るのであります。尤も體質に依りまして極く些細な動機に依ても暴發して來る人もあり、可なりの無理をしても耐へるやうな人もある、即ち結核の起り易いと起りにくいの違ひはあります、併し本來頑健な人に於ても餘り甚しい無理を致しますと往々やられます、御承知でもありませう、非常に丈夫で體格自慢の人が、此病氣に罹つて人を驚かすやうなことがございます、ですから、日頃頑健であると云つても、頑健に誇つて無理をすることはなりませぬ、又日頃虛弱でございましても、是は平素の心掛一つで其虛弱の體質を改造し結核病などを起しにくゝすることも難くはないのでござい

ます。

猶此の生活上に於ける無理に依つて潜伏結核が爆發するといふ事は監獄或は軍隊等の事實を見ると一層善く分るのであります。監獄には近年は非常に衞生的になり、若し假りに結核患者でも居つたならば、其の跡を非常に善く消毒すると云ふ風にして十分なる注意を拂つて居ります。それ故監獄に於て傳染すると云ふやうなことは殆ど無いと云つて宜からうと思ひます。然るに拘らず、監獄に收監せられますと往々にして肺病を起します、是れは收監せられた爲めに非常に精神に煩悶を起し、夜も寢られず食事も進みませぬ。今迄と丸で異つた苦しい惡い生活をするのでありますから、抵抗力が甚しく衰へ、從來抑へ來つた所の潜伏結核が終に抑へきれずして發病するのであります。軍隊は、方々から體格の最も良い人達を選り出して集めた場所でありまして、結核患者を收容する病院とは異ひます。然るに矢張り結核性の病人がかなり澤山に出ます。是等も潜伏結核の爆發と見なければ解釋は困難であります。又先頃の歐洲大亂は是等の問題に對する非常な好い材料となつたのであります。丁度大規模の動物試驗を人間に試みたやうな結果になつたのであります。(表を示す)

是れは獨逸の人口四萬以上の大きな都會の人民に就ての調査を、獨逸中を集めて表に作つたのであります。是れは其の當時に於て、結核で死んだ人の數でございます。千九百十四年、是れは戰爭の起つた年で、二萬九千百四十六名　其の次の年に於ても殆ど同じでありましたが、千九百十六年になつて三萬一千八百十五名と云ふ風に死亡者が殖へ、其の次の年にずつと増しまして、四萬以上になり、千九百十八年には四萬三千七百四名、それから十九年になりましてずつと減り始め、二十年になつては二萬七千百七十八名。二十一年には更に減ると云ふやうになつたのであります。扨て戰時中獨逸に於ては何う云ふことが起つたかと申しますと、御承知の通り聯合軍から嚴重に食糧の封鎖をされたのであります。そ

れで獨逸の政治家や學者などが非常な努力を以て、國民に對して食物を供給することに就て、色々方法を立てたのでありますが、戰爭が永引いて段々食物に不自由を感じて、平時に於ては國民一人平均一日に二千六百「カロリー」の食物を取つて居つたのが、斯樣な譯で段々に減つて來まして、此の千九百十六年の夏になつて千九百八十三「カロリー」に減りました。獨逸のことですから國民一人當りの食量は何の位と云ふことは中々正確に調べたのであります。それから十六年の冬になりましては更に減つて、千三百四十四「カロリー」になりました。千九百十七年の夏になつては千百「カロリー」迄減りました。平時の半分以下に食量が減じたのであります、其年と翌年が結核死亡率の頂上でありました、そして封鎖が解けて食物が豐富になるに從つて結核も減りました。

斯樣な次第で、獨逸國民は戰爭中非常な榮養不足に陷つたのであります。而して一面には敵國と戰ひ、一面には生活困難と鬪はねばならぬやうになつたのであります。老若男女共に心身を非常に惱ましたのであります。是等のことが動機となりまして、國民の身體の抵抗力はどんどん衰へて、是迄は大夫であつた人で、潛伏結核を擡頭せしめ肺病患者となる人が續々出て來たのであります。それで斯樣に結核死亡者の劇增を示したのであります。戰地に出征した人の間にも結核患者は多數に出ました。併し是等は戰地に於て傳染したと云ふのではなく、是迄あつた所の潛伏結核が戰時の過勞及窮乏から爆發したのであると歐米の學者に依つて是認せられて居ります。

是等のことを考へますと、既に中年以上になつた者は最早や傳染濟みの人でありますから、外部よりの傳染のみを怖れて之を避けることに腐心致しましても、それだけの注意では決して安全と云ふ保證は附けられないのであります。若し前に申したやうな動機に出會ひますならば、矢張り病氣が起つて來る憂へが充分にございます。所が世人は此の事情を善く御會得になりませぬから、結核病を蛇蝎の如く怖

れるに拘らず、之を起すやうな不節制をして餘り恐ろしいと御考へになりて居らぬ方が御婦人には少いでありませうけれども、男子には中々澤山ございます。けれども御婦人の方には、餘り肥ると見つともないなど〻強て小食にして榮養不足に陷り、丁度戰時の獨逸國民のやうな眞似をして態々榮養不良にするやうな方も無いではないから御注意肝要と思ひます。實際に生活上境遇上已むを得ずして無理をするのは仕方がありませぬけれども、中には避れば避けられる不節制をして病人になると云ふ者も青年等には多いのでございます。つまらぬ夜ふかしなどは大に愼まねばなりません。是等は家庭に於ては餘程御注意肝要と思ひます。

然らば此の御互が持合せて居る所の潜伏結核と云ふものは何うも物騷千萬である。さう云ふものがあつては危險で堪まらぬと云ふ御考へが必ず起るでありませうけれども、是れはさう危險なものとばかりは申されないので一方に於ては又尊むべき半面があるのでございます。それは此の結核菌の御陰で、免疫力を得られる事であります。菌が入つて居る爲めに、外部から來る菌を壓倒する力が與へられるのであります。私共は始終多數の結核患者に接觸致します。私共の療養所に於きましては重症患者が多いのでありますから、結核菌を少しも吸ひ込まぬ譯には行かぬのであります、夫にも拘はらず斯樣に健康を保ち得るのは、詰り此の潜伏結核と云ふ守り本尊を有つて居るからでございます。此の事は他の半面から證明することが出來ます。潜伏結核と云ふ守り本尊を有たない人民は、世界中を探し廻りますと野蠻國にございます。野蠻國の土人は未だ曾て結核菌に出會つたことがないと云ふ連中があります。さう云ふ人は全く潜伏結核無しの清淨無垢でありますが、此の清淨無垢は餘り感服出來ないのであります。斯樣な人が一朝文明國に連れて來られて、文明人、即ちそれには結核患者が混つて居るのでありますから、さう云ふ國に參りまして一旦結核菌を吸込みま

すと、劇烈な結核病を起して大抵は死んでしまふのであります。既に潜伏結核を有つて居る我々に起つて來る結核病とは丸で違ひまして謂はゞ「ペスト」の次位の劇烈さを以て、さう云ふ人に起るのであります。昔奴隷賣買が行はれました時分の事、亞弗利加のスーダンで生れた土人達は、其の奴隷市場に於て高く賣れない。値段が非常に廉い。是れは何う云ふ譯かと云ふと、スーダン生れの奴隷を買つて來て働かせやうとすると、結核病が起つて忽ちの中に死んでしまふから、買つた人が損害を蒙むる。結核の無いスーダンから出た土人は惡性の結核で死ぬのです。さう云ふ事實が前から分つて居りました。猶土耳其の田舎等から青年が出て、都のコンスタンチノープルへ來て兵隊になる、さうして暫くすると結核病で皆死んでしまふ。是等も矢張り其の田舎に於ては未だ患者が無かつたので潜伏結核を有たぬ青年が多い。それがひよつと都會に出て結核菌に打付かるので、詰り守り本尊無しに危險地に入つたと同じでありますから、結核病にやられてしまふのであります。斯樣な例は未開地に於ては澤山にあつて、一一申しまするのは煩はしい位であります、それで最近の御話を致します。彼の歐洲大亂の際に、歐羅巴各國では、各自自國の兵隊を繰出す以外に、それぞれ殖民地からして土人を勞働隊として引張り出したのであります。所がそれ等の土人は反應を檢査して見ると、反應が現れない連中が多い。言換へれば潜伏結核を有たない連中が多い。一寸素人考へでは、さう云ふ人は幸福だらう、安全だらう、丈夫だらうと思はれますが、それがさうでない。戰地で働いて見ると直ちに結核病が起つて來てバタ〳〵斃れてしまふ。フイジイ島から出た勞働隊の如きは、到底是れでは駄目だと云ふので生殘つた者も解隊して歸してしまつたと云ふことであります。それで是等土人兵に於ける結核死亡率と、白人兵の死亡率とを比較して見ますと、清淨無垢である土人の方に結核死亡率が二十倍も多かつたのであります。ですから潜

伏結核と云ふものは、若し身體の扱ひ方が惡いならば危險であるけれども、身體の扱ひ方が良くて抵抗力を強く保つて居るならば、是れが守り本尊となつて我々に免疫力を與へて下さるのであります。

療養所から出しました小さな宣傳ビラを先程皆樣に差上げて置きました。是れには年齡に依つての差別を立てゝ書いてございます。と云ふのは年齡に依つて餘程趣きが異ふからでございます。

第一には乳兒を保護せよと云ふこと、即ち乳呑子に對する豫防要領を書いてございます。乳呑子に於ては非常に抵抗力が弱くて、是れが菌を吸ふなり飮むなりしますと、丁度先程御話しました野蠻人の結核の如く惡性であつて斃れる者が多い。殆全部斃れてしまふと云ふ程でありますから、斯う云ふ乳呑子に對しては結核患者の家なれば是非隔離しなければならぬのであります。それより少し大きな子供になり小學校時代になると餘程趣きが變つて、抵抗力はずつと強くなるのであります。（表を示す）

是れは抵抗力其のものを表した線ではなく、各年代に於ける結核死亡率を表したものでありますが、此の生れたての小さい御子さん達は死亡率が非常に高い。生れたての子供百人に付いて六人は結核で死ぬ。それで四五歲から十歲位にかけては亡くなる方がずつと少なくなつて百人に付いて一人に達せぬ位である。それから十歲以上十五歲位になると少し增して百人に二人死ぬ。二十五歲から三十五歲位の間は一番高いが、老人になると又ずつと減つて來る。是れは死亡率ですけれども、大體結核に對する抵抗力の如何が分るのであります。傳染と云ふことはそれならば何うかと云ふと、反應を檢査して見ると生れたてに於ては反應を現す者が非常に少なく、それから大きい子供を集めると少し多くなり、段々大きな子供を檢査するに從つて陽性率が多くなる、十五六歲から二十歲位になると百人が百人反應を現して來ます。故に小學時代には傳染が少ないと云ふ意味ではなく、傳染する機會が多いにも拘らず死亡する

人は少なくなつて居る。斯様な譯でありますから、若し家に結核患者があつて子供が幾人かある。其の場合に誰を隔離するかと云ふと、生れたての子供を第一に隔離する。其の他の者は必ずしも隔離する必要はない。勿論衞生を重んずる必要はありますけれども、絶對に隔離しなければならぬと云ふ程のことはないのであります。私共が患者を治療して見ますのに、小學校時代の子供の結核は、かなり病勢が進んで居ると思ひましても存外癒り易いのであります。それで今度はずつと大人になつて始めて結核菌を吸ふと云ふ様な人は、先に御話した野蠻人と同様是れも非常に劇しくなるのであります。それですから同じく傳染を免れないものとしたならば、人間は何時結核の傳染をするが一番幸福かと申しますと、小學校時代が一番宜い。或學者は小學校時代の傳染は仁惠的傳染と云ふ名を附けて居るのでございます。此の時代の豫防法としては、詰り體力を充分に保つやうな生活法をすると云ふことに重きを置くことが一番宜いのであります。此宣傳ビラに十箇條掲げてありますのは、詰り其の趣意に基いて居ります。大人の豫防法に於ても先程申上げたやうに、潜伏結核の爆發を防ぐ要心が第一である。而して新たに傳染するのを戰々競々として怖れる必要はないと云ふ趣意であります。勿論患者としましては周圍へ黴菌を散布して、濃厚傳染を起させるやうなことがあつては不德でございますから、結核患者の注意と云ふことは最後に掲げてあります。

結核に關する話をずつと以前御聞きになり今日久しぶりで又御聞きになつた御方は、ことに依ると私が突飛なことを言つて居るやうに御感じになるかも知れませぬから今私の言の突飛でない事を御承知願ふ爲めに一例として亞米利加で出しました結核豫防の宣傳ビラの一部分を御紹介しますと、「殆ど總べての小兒は已に體内に生きたる結核菌を有す、是を病氣として發現せしめざる爲めには次のやうな生活法が肝要である、」と云ふのでやはり最早傳染濟みと云

ふ前提の下に唯生活上の注意を擧げてある。それは第一には食物に就て注意をすること、第二には充分の休養をすること、あゝ云ふ運動の盛んな國ですから、過劇な運動を制する爲めに休養の必要を說いて居ります。子供ならば夜などは早く寢かしてしまふ。それから第三には大氣生活を奬勵して居るのであります。成べく戸外で遊ぶやうに、勉强も出來る丈け戸外でせよ、夜は外の空氣の通ふやうな部屋で寢ろといふ樣な宣傳を致して居ります。

此の大氣生活と云ふのは、私が常に主張する事でありますが或人はそれは西洋の眞似をするもので、唯西洋かぶれをして行ふのである。日本のやうな國でさう云ふことをやらうとするのは大變な間違であると云ふ方があるのでありますが、私共は遠慮會釋なく之を奬勵しなければならぬと云ふ主張でございます。私は自分が病氣に罹つて以來此の生活法を行つて、可なり重くなつた病氣を治すことが出來た生活法であるから、未だ此の病氣を起さず將來或は起すかも知れぬ所の一般人に對して、此の方法を行ふのが一番合理的と考へて居ります。現在に於ても私の家庭では赤ん坊に至るまで皆夜の空氣の入つて來る部屋に寢るのであります。冬など隨分寒いのでありますけれども、寒さを恐るゝことよりも新鮮な空氣を要求するのでございます。私共の療養所には百三十名ばかりの看護婦が居りますが、此の寄宿舍に於ても矢張り出來るだけ開放して、夜間も上の窓は開けて居ります。患者は五百人近く居りますが、それ等に對しても同樣に開放して居るのであります。それで新聞雜誌等でも此の主義を宣傳致しますが、時とすると食はず嫌ひの方から反對がありますけれども、實驗と云ふこと程有力なるものは無いと考へて居ります。唯今多少の反對はありましても暫くすると誰も反對する者は無いやうになるに相違無いと考へて居ります。

猶日常生活に對して改善して頂きたい點も種々ありますけれども、餘り長くなりますから省略致しま

して、最後に此の結核病に對して社會的に如何なることが必要であるかと云ふことを大體申上げて今日の話を了りたいと思ひます。

第一に結核療養所を增設し、或は擴張することは目下の急務であるのでございます。今日東京市の療養所は五百人近くの患者を收容して居りますけれども、猶入りきれなくて待ちに待つて居ります御氣の毒な患者が百數十名ございます。其の人達を收容しますのには「ベット」の空くのを待つのでありますから一月以上も掛ります、其中に又後から後からと申込みがあるのでございます。それ等の患者が病院に入られないで居りますと、其の患者の病勢が段々に進んで終に到底救ふべからざる狀態になるのは勿論であります。又其の家族の人はさう云ふ患者を抱へて居りましては働くことが出來ない。のみならず貧民階級に於きましては家屋は狹く、生活上の衞生が惡く、濃厚傳染も行はれるのであります。で種々の點に於て此の社會の被むる損害は非常に大きいのでありますから、出來るだけ多數の患者を速く收容してやる設備が必要でございます。亞米利加に於ては結核患者を收容する專門の病院或は療養所の病牀が六萬四千も用意されて居るのでございます。紐育だけでも七千位の病牀があるのでございます。然るに我が東京市に於ては、唯今申上げましたやうに五百足らずの病牀しか無いのでございます。斯樣な次第で療養所の擴張は目下の急務でございます。後藤市長閣下に於かれましても其局に當る人々と共に色色と御心配下さつて居られますから、近き將來に於て擴張案が實現せらるゝことゝ信じて居ります。けれども此の擴張と云ふことは、一度の擴張位では間に合ひませぬ。何度も擴張して數千名の人を收容し得るやうな設備を東京市で致さなければならぬのでございます。然し東京市民の負擔をさう際限なく增すと云ふことは困難であります。そこで何うしても是れは富豪の御寄附に俟たなければならぬやうなことになるだらうと考へるのでございます。近年色

色社會事業の爲めに御盡しになる富豪が續々と現れるやうでありますから、此の結核事業の爲めに御盡しになる方も、近き將來に必ず現れると信じて居るのであります。皆様に於かれても何うぞ直接間接に十分御盡力あらむことを御願致します。

第二には療養所の外に林間學校を澤山に建てたいのであります。是れは數年來、東京市に於ても夏は彼方此方に林間學校を經營致しまして、而して其の成績は無論良いのでありますが、林間學校は夏だけではなく絶えず開いて置く學校が是非必要でございます。而して其處には虚弱兒童、之を放つて置いて普通の小學校へ通はせるならば或は結核病を起すだらうと云ふやうな小兒を其の學校に收容して、衛生的の合理的の生活法を行はせつゝ學業を授けますと、學業に於ては普通の子供と同様或は同等以上の成績を舉げ、而して身體は極めて健康になるのでございますから、此の第二の國民を造る、強健なる國民を造ると云ふ精神に於て最も必要な事業であらうと思ひます。併し唯今は茅ケ崎に白十字會の林間學校があるだけで、四季を通じて行つて居る林間學校は今の所他には無いのでございます。是れは是非識者の力に依つて多數の林間學校を開設したいと思ひます。

第三に勞働者に對しては、勞働者の疾病保險制度が必要でございます。是等も政治家に依つて研究されて居りますから其の中には出來るでありませうが、是れを一日も速く欲しいと考へて居ります。

第四に工場衛生を是非改善しなければならぬ。工場並に寄宿舍の改善及休養、睡眠、榮養等の注意であります。

第五には今日痛切に感じまする生活必要品の値下げであります。物價調節問題であります。此の我々の生活が樂になると云ふことは結核問題の解決に非常に必要であると云ふことは、先の獨逸に於ける事實を御考へになつても直に分ることであらうと思ひます。故に昨年獨逸の結核病學會に於てアルフォンス、

スフィッシャーは、「結核菌も安きパンには敵する能はず」とて食品値下げの必要を結核問題の方面から絶叫したのであります。是れは我が國に於て是非參考として國民生活の安定を圖らねばなりません尤も物價調節のことに就ては各人皆努力せなければならぬ。獨り政治家の方々の爲さる所を待つのみではいけないと思ひます。御互が注意するならば物價はずつと下落させることが出來るのであります。嘗て紐育に於て物價が高いと云ふ聲が起つた、洋服の値段が非常に高い、最早や戰爭が終つて大分たつたから戰爭前程に引下げて差支無い筈である。依つて洋服屋が値段を戰爭前程に引下げる迄は、御互が洋服を一著も造らぬことにしやうではないかと云ふことを、或人が新聞に意見を書きました、すると其の翌日から洋服屋の店頭に一人も立たなくなつた。直ちに洋服の値段が下つて、他の物も其の調子で下つたと云ふ。斯樣な譯で、あゝ云ふ生活程度の高い國でありながら物價は廉い。日本のやうな物價の高い國は他に無いのでありますが、各人が日常生活に大節約を行ひ、保健上必要もない方面の贅澤を愼しむならば物價も自然下りまして國民の生活に安定を與へる事が出來、延いては結核問題の解決にも貢獻する事になります。

第六に今日困る問題は入學難の解決であります。皆樣御存じの通り、小學校を卒業して女學校へ入らう、中學校へ入らうと云ふことになりますと、其の入學試驗の爲めに少年少女たちが何れ程苦心するか、未だ發育盛りの子供が入學試驗の爲に非常に體力を消耗し身體の抵抗力を弱めて居る。是等のことがさつき御話したやうに結核發病の原因になります。やう／＼女學校に入り、或は中學校に入つて而して病氣になる。或は高等學校の入學試驗に及第して喜んだ間もなく肺病を起すと云ふやうな人は大分あります。其の他種々の方面に於て國民が無益に體力を消費することを防がなければならぬと思ひます。今の日本の人達は、色々なことに體力を非常に

消耗して居ります。奔命に疲れて居ります。此の點に就て虚禮廢止は餘程必要であると考へます。其の他此の日本の文字と云ふことが中々大切な問題だらうと考へます。皆樣御氣附きであらうと考へますが、今小學校の生徒が文字を覺へる爲めに何れ程苦心して居るか、そして、何れ程身體を惡くして居るかと云ふことは、識者の大に注意すべき問題だらうと考へます。私は療養所の看護婦を養成する必要上、看護婦として必要な語を列記して、それを書家に書いて頂いて習字の手本に造りましたが、それに假名を附け、說明を附けたいと企てまして、同僚と共に行つて見ましたが、仲々正しい假名が附かないです。一體頭が惡いのでありますけれども、兎も角高等の學問をした日本の大人に、日本の文字が出來ない。是れで宜からうと思つても、字引を引いて見ると皆間違つて居ります。一例を擧げまするこ、此會場の職業學校の業と云ふ字は「ギヤウ」であらうか「ギヨウ」であらうかと字引を引いて見ると「ゲフ」でありました。さう云ふ譯で、大人になつても完全には出來ない樣な事を小學兒童は强ひられ、夫が出來なければ中學にも女學校にも入れないのであります。何事を稽古するにも事柄其のものを學ぶよりは先づ文字の爲めに苦心して居ると云ふことが中々多いのである。こんなことの爲めに日本人は何れ程損をして居るか、何れ程體力を無益に使つて居るかと云ふことを餘程考へる必要があると思ひます。

之を要するに、結核の慘害を防ぐ爲めには、唯結核傳染の經路を知り之を避ける方法のみを講じて居つたのでは、結核豫防の目的を達することは出來ませぬ。是非國民一般の日常生活に改善を加へ、我々の生活を衞生化すると云ふことが必要でございます。而して體力を旺盛にして、從來人の閑却して居つた所の潛伏結核の爆發を防ぐと云ふことに意を用ひたならば結核の發病は著しく減ずるに相違無いと考へて居ります。而して既に發病した人に對しては先程御話した如く、正しき療養法を徹底的に行ら

せる方法を講じ、資力の無い者には社會が之に療養の途を與へてやる。斯の如くすれば、近き將來に於ては結核死亡率を半分に減らすことは困難でなからうと考へます。是れは一寸御聞きになると空論のやうに聞えるか知れませぬが、併乍ら前例のあることであります。米國に於きましては結核死亡率が五十年前に比較して五分の一近く迄減つたのであります。即ち以前には人口十萬人に對して四百名餘りの死亡者があつたのに對して、今日では八十九名迄に減つたのであります。(表を示す)

是れは倫敦・紐育・巴里それから東京、是れだけの結核死亡率(人口十萬に對する)を表に示したもので、紐育に於ては今から五十年前即ち一八七二年に四百八名の死亡率であつた。然るにそれが昨年即ち一九二一年には八十九名に減つて居ります。巴里に於ても斯う云ふ風に減つて居ります。倫敦に於ても矢張りだん／＼下向して居ります。獨り東京に於ては上を向いて居ります。

それで結核に對する事業の如きは、一寸考へますと非常に不生產的の事業で、唯金を注ぎ込んで金を捨てゝしまうやうに思へます。併乍ら間接には非常に大きな生產的事業と見て宜からうと思ひます。それは最初に申しましたやうに、一年に我が國で十一億圓も失ふことになつて居るのでありますから、假りに患者數が半減致したとすると、一年五億圓以上の儲けが出て來る譯であります。若し此の五億圓の金があるならば、先程御話した入學難などは消滅致します。立派な學校がどし／＼建てられるのであります。又國民の體質を改善し、優良剛健なる國民を完成する爲めにはどうしても先決問題として結核撲滅事業に成功せねばなりません。それ故歐米各國に於ては、此の結核問題を國家百年の大計と云ふ考へで十分に身を入れて居るのでございます。それで其の成績が良くて、只今申上げましたやうに死亡率がどん／＼減つて來たのであります。我が國に於ても先輩諸先生方の御盡力に依りまして療養所なども出

來、結核に對する事業は今日其の曙光を認めたのでありますから今後益々此の事業の發達を圖り歐米に負けない好成績を示して、國民の幸福を圖りたいと考へるのであります。それで是非此の點に對して、皆様の御後援を希望する次第であります。私共は此の對結核戰の第一線に立つて奮闘することを辭さないのであります。長い間の御靜聽を感謝致します。

叢談

歐米各國の旅行中の偶感一二

醫學博士　篠原昌治

私は昨年中歐米各國に出張を命ぜられて各地を旅行致しました際に、私は私の本務たる諸種の調査や研究事項以外に種々感じたことがありますから、今爰に其の一二を申上げて御參考に供したいと思ひます。

その一　歐米人と食物

歐米各國の人は體格が偉大であつて且つ其智能に於ても善く發達して居ることは到底吾國人の及ぶ處でない而して兩者の間に斯る差異を生ずるは如何なる理由によるものかと云ふにそれは主として吾邦人が凡て含水炭素を主食とするに反し歐米人は一般に蛋白質を主食とするに因るものである其故吾邦人も歐米人と匹敵せんとするには從來使用し來つた米食を廢して肉類を主食とすることが最も大切なる要件であるとは單に世人の一話題たるのみでなく多少學術的信用ある人々によつてすらも唱へらるゝ處であつて從つて之に共鳴する人も少なくない樣である然るに斯の如きことは學術上興味あることとなるのみでなく社會的に極めて重要なる關係を有する問題であるから斯る議論を主張するに當りては其に就て十分信用すべき學術上の論據を有すべきものなるにも拘

らず此事に就ては未だ嘗て吾人を首肯せしむるに足るべき說明を聞くことが出來ないで斯る議論を生せし根源が多くは單に蛋白質は含水炭素に比して滋養分に富んで居るから從つて之を常食とすれば心身共に健全となるべきものであるとか又は歐米人の優良なることに就て他に何等原因の求むべきものがないからそれは多分歐米人が肉類を常食にするに基因するものであらふとか云ふが如き何等科學的の根柢を有しない一種の空想に由來するものであるのは實に遺憾の次第である。

然るに私の親しく視察した處によれば同じく歐洲大陸にあつても其食物の種類は決して同様のものではなく各國大に其趣を異にするものゝ樣である而して佛國獨逸等にあつては素より肉類を主食とするものであつて麵麭の攝取量も比較的少く米などは各「レストーラント」で之を用意しては居るけれどそれは僅に客の注文に應ずるだけのものであつて其使用量は極めて僅少なものであるけれども既に墺太利に入れば稍其趣を異にし各「レストーラント」では其獻立に於ても盛んに米飯を使用し又同國人は好んで之を食するものであつて足更に以太利の地を踏むに至つては前者と全く反對の現象を呈し肉食の量著しく減少すると共に同國人は殆んど三食共「マカロニー」及び米飯を食するものである而して「マカロニー」は卽ち吾國の饂飩であるから以太利人は吾邦人と同様に殆んど含水炭素を以て其主要食物とするものである。

然るに若し吾邦の一部の人々によつて唱へらるゝが如く肉食が人種改良上極めて大切なるものであるとすれば同じく歐洲大陸に存在する以太利に於ては夙に其含水炭素食を改めて肉類を主食とすべき筈なるに同國が他の肉類を主食とする國々と境を接して其間常に頻繁なる交渉を有し且同國に於ても從來篤學の人に乏しからずして是等の點に就ても十分研究せられて居るべきものなるにも拘らず今日に至るまで依然として含水炭素を主食として居ることは大

に攻究すべき價値のあるものではないかと思はるゝ而して以太利人が何が故に肉食を避け含水炭素を主食として居るかと云ふに元來國民の攝取すべき食料は單純に食物そのものに就てのみ考慮すべきものではなく其國の氣候風土等と大なる關係を有するものであつて從て佛國獨逸の如く氣候比較的寒冷にして雨量少き國民には肉類が最も適當なる食物であるけれど以太利の如く暑氣強くして雨量多き國にあつては肉食よりも却て含水炭素食の方が國民の嗜好に適するものではないかと思はるゝ若し果して然りとせば吾國の氣候風土は以太利のそれに酷似して居るから從つて吾邦人が含水炭素を主食とすることは自然の法則に協へる最適當なことかと思はれる殊に以太利日本の兩國が世界中に於て最も美味なる米を產出すると云ふことも大自然が是等國民に米飯を主食とすべきことを語るものではないかと思はるゝものである然るに斯る長き歷史を有する吾國民の米食を一朝にして之を廢止して肉食に改めんとするが如きは極めて愼重考慮すべき問題であつて決して一片坐上の議論にのみよつて決定せらるべきものではないことは極めて明かなる事實である乍去私の此議論も何等研究の結果でもなく從つて又學問上の根據を有するものでないからこれによつて敢て他人の議論を駁するものではない唯私が爰に申述べるのは若し日本人の米食を廢して肉類を主食とすることを主張せらるゝものならばそれに就ては各方面に亙つて詳細に其利害得失を攻究し且十分に學術上の研究を遂げたる上にして頂きたいと云ふことを主張する次第である。

その二　親子の關係

東洋では親子の關係を最大切なるものとし人の子たるものは其兩親に孝行を盡すことが人生の最大なる美德とせられて居りまして從つて孝は百行の基なりとか又は三千の罪不幸より大なるはなしとか云ふ樣な格言が最も尊重せられて居りました然るに近來西洋文物の輸入せらるゝにつれて是等の思想も漸

次變化する樣になつて殊に一部の人々からは子たるものは其兩親の大恩を受けて居ると云ふけれど元來子供の出來るのは多くの場合に於ては其兩親が子供を造りたいと云ふ努力の結果によつて生ずるものではなく人は全く自然の結果によつて此世に生れ出るものである從つて其子供たるものは自分を生んでくれたからと云ふて其兩親に對して何等の恩義を感ずる必要もなく又既に其兩親が子供を造つた以上は之を養育するは當然の義務である其故子供は其親に對して孝道を盡す必要はない現に西洋各國に於ては東洋諸國に於けるが如く親に孝と云ふことを唱へては居ないではないかと云ふ樣な說を主張せられて居る樣である然しながら私は今爰に此議論の全般に亙つて其可否を論ずるものではない其故その前段に就ては何等論評を試むることなく單に其後段卽ち西洋各國では親に孝行と云ふことは餘り流行しないから吾邦でもやらないでもよいではないかと云ふことに對して私は今回歐米各國を巡つた時の所感を述べて見たいと思ふものである元來子供が兩親に孝行を盡さねばならぬと云ふのは子供は兩親の身體を分けて生れて來たものであると云ふことゝ既に子供が此世に生れ出でゝから一人前の人間になる迄には一方ならぬ兩親の世話になつたと云ふことが其主要なる理由をなすものである然るに小兒が兩親の體を分けて生れたものであると云ふことは洋の東西を問はず同樣であるけれど其子供が此世に生れ出でゝからの親の子に對する恩愛に至つては日本と歐米各國とは決して同樣のものでなく其間大なる差異がある樣に思はるゝものである何となれば私は昨年初夏佛國馬耳塞に上陸し其後歐洲各國を巡回しましたが其際特に注意を惹いたことは歐洲各國に於ては一寸した外出の際にも夫婦は多く同行して居るにも拘らず子女を伴ふて居るものを殆んど見懸けないことであつて斯懸けるときは申迄もなく各自單獨に外出する際にも屢〻子女を伴ふて居つて子供なる者は恰も影の形に

添ふ如く兩親の側を離れないことをのみ見馴れて居る身には頗る奇異に感ぜられた次第であつたそれでは歐洲各國では子女の保育は如何にして居るかと云ふにこれは主として保姆又は子守女等に任せて置くものであつて兩親は深く之を顧みない樣である其故夕方になつて一日の職務を終へた夫婦が打揃つて咖啡店で談笑に耽つて居る際には小兒は子守女に伴はれて公園に行き小さき鍬を以て土を堀返して嬉戯して居り又兩親が芝居オペラ或は音樂又はダンスに浮身を窶して居る間には小兒は寢室に於て保姆の傍に安らかに眠つて居ると云ふ有樣であつて決して父母の跡を追ふ樣なことはないこれを吾國の母たるものが自己の娛樂を殆んど全く犧牲として單に子女の保育のみに沒頭し一寸した夕方の散歩にも母は幼兒を懷き父は保姆車の後を押して出懸けたり又日曜祭日等の大人でさへ命懸けでなければ乘る事の出來ない程込合ふ電車に數人の子女の保護に精氣を疲らしつつ昇降する人々の有樣に比較すれば其差の餘りに大なるに驚くの外ない次第である。

それでは一定の年齡に達した後はどうであるかと云ふにこれも吾邦とは大に其趣を異にして居つて吾邦では子女が相當の年齡に達しても其衣食の料は家長たるものより支給せらるゝものであるけれど歐洲各國に於ては素より身分の高下家庭の貧富等によつて差異はあるけれど多くは自ら働いて自ら衣食することになつて居る其故吾邦に於ける女子の如き小學校育を卒へたる後家庭に止まつて父母の手傳をなし又は單に何等かの御稽古に通ふものが多數であつて且それが極めて高尙なることの樣に思はれて居るけれど歐洲各國ではその樣なことはなく是等のものは多くは一定の職業に從事して自給の途を講じつゝあるものであつて從つて相當な家庭の娘でも毎日會社商店其他に勤務するを少しも恥とするものではないそれでは何等かの事情によつて勤務することが出來ない時はどうであるかと云ふに私の知つた或家庭では母が病身なるが故に其長女は勤務することが出

來ず家庭に止まつて家事の手傳をすることになつたが其際父は自分の娘に對して毎月相當の俸給を支給し娘は其中より食料を支拂ひ且自分の着物や靴などを買つて居ると云ふことであつた。

以上申述べた通り歐洲各國では親の子に對する恩愛が吾邦とは非常に大なる相違があるから從つて人の子たるものが其親に對する關係も其間に多少の相違があるのは當然のことゝ思はれる然るに是等の事情に就て深く攻究することなくして單に歐米各國では親に孝行と云ふことを多く行はれて居ないから吾邦に於ても亦孝行をする必要はないと云ふ様な議論は全く歐米各國の表面のみを見たる淺薄者の議論であつて何等傾聽すべき價値を有せざるのみならず實に國家の良風美俗を害するものである様に思はるる。

その三　ヴェニスの都

水の都としての以太利のヴェニスは世界的有名のものであつてこれを寫眞や繪畫等で見るときは全市悉く水の中に奇麗な家屋が建築せられ其間を優美な形をして居る「ゴンドラ」(以太利の船)に縫ひ行く有様なとは得も云はれぬ趣がある從つて其景色は多くの詩となり又歌となつて讃美せられ世の人々の憧憬の的となつて居る然るに足一度び此都に入るに及んでは豫想と全く相反し其意外に驚くものがあるそれはヴェニスの都がすべて水の中に建てられ踏むべき道路も全く無いではないけれど其數極めて少く市内の交通も殆んど船で行はれて居ると云ふことは少しも間違ひのない事實であるけれど其水は兼て傳へ聞いて居つた様な奇麗なものではなくて吾國の溝水の様に甚しく黒く濁つて居るのみでなく一種の厭ふべき臭氣をさへ有し頗る不快の感を與へるものである此水の上を「ゴンドラ」に乘つて通行する際に兩側に立列んで居る家屋はどうであるかと云ふに此も多くは此水路に對して其裏面を見せて居るものであるからそこに何等の美觀をも見出すことが出來ないで却て其壁に臺所の汚水や大小便等の不潔物を運ぶ管が

通つて居つたり又種々の洗濯物等が吊してある爲に頗る汚穢の觀を呈するものであつて此間を通行するゴンドラも支那式の船を見た眼には左程珍らしいものでもなく其前後には相當な裝飾を施してあるものもあるけれど左程奇麗なと云ふ程の感じを與ふるものではない殊に之を操る水夫は頗る下等で貪慾なものであるから此船に乘ることは日中ですらも相當不安を感ずることであつて若し夜間にでも之に乘るときは何處に於て如何なる迫害を加へらるゝかも知れない全く危險なものとは多くの旅行者の等しく感ずる處であるそれで私は平素から憧れの此都に入つた時は全く其豫想を裏切られた樣な心地がせられて餘り快い感じはしなかつたそれでも此都の市街地を離れて遙に海の方へ出れば水も奇麗になり又其景色もよく殊にその夜景などは實に美しいものであると云ふことだけは爰に附加へて置きたいと思ふものである。

「ヴィタミン」と健康竝に疾病（承前）

エムメット

「ヴィタミン」の共通源泉及びその精製

「ヴィタミン」の發見竝にこれが分類に關して略記せる後にこれを含有せる食料品につきて思考するは興味多きことなり、次表は是等「ヴィタミン」の共通源泉に關する表なり。

「ヴィタミン」を含めるもの		「ヴィタミン」を含まざるもの	
脂肪溶族			
鱈肝油	++++	麩	—
牛酪脂肪	+++	植物性油	—
「クリーム」	++	種子	+?
卵脂肪	++	豚脂	+?
緑葉	++	堅果類	—
水溶B（抗神經炎）族			
麩	+++	鱈の肝油	—

種子の芽	+++	植物性油	—
米糠	+++	豚脂	—
穀類(自然ノマヽ)	++	牛酪脂肪	—
堅果類	++	挽きたる穀類(米、麥粉等)	—
野菜類の或るもの	++	調理せる食料品	+?
「オレンジ」の汁	++		
上皮を搦へる乳汁	+		

水溶C類

「レモン」の汁	+++	麴	—
「オレンジ」の汁	+++	鱈の肝油	—
「トマト」	++	堅果類	—
新鮮なる野菜類の或物	++	穀類及種子	—
發芽せる種子	++	罐詰類	+?
新鮮なる煉ラザル乳汁	+	鹽漬燻製肉類	—
		調理せる食物	+?

該表は又醫家及び榮養學者の注意せざるべからざる點を啓示せり、即ち一種類の「ヴィタミン」に富める物質は必ずしも他の「ヴィタミン」を含有せざるなり、鱈の肝油及び牛酪脂肪は脂肪溶性「ヴィタミン」を含有すれども他の二種類の「ヴィタミン」はこれを含有せず、同様に麴は水溶性Bに富め共脂肪溶性A及び水溶性Cを毫も含有することなし、これに反して「オレンジ」の汁は水溶性B及び水溶性C「ヴィタミン」を或程度まで含有せり。

茲に注意せざるべからざることは天然にして新鮮なる際には「ヴィタミン」を含有せる物質も、その精製竝びに調製の過程に於て或は物理的方法にて或は化學的方法にてこれを失ふことあることなり、即ち鱈の肝油は未製の狀態に於ては脂肪溶性「ヴィタミン」に極めて富めども、その精製に際して適當なる考慮を拂はざるときは、精製せられたる肝油は該「ヴィタミン」を含有すること極めて少くなるなり。

又酸化作用の行はるゝ時は該「ヴィタミン」竝びに水溶性「ヴィタミン」は極めて障碍を蒙るものなり、又水溶性B及C「ヴィタミン」に富める食料品に「アルカリ」を加へ且つこれが熱せらるゝ時には、該「ヴィ

タミン」は極めて迅速に破壞せらる、又或種の金屬卽ち銅の如きものと接觸せしむることは水溶性「ヴィタミン」に有害となるものなり。

調理法の影響

尚ほ考慮すべき問題は食料品「ヴィタミン」含有量に對する調法理の影響なり、この際注意せらるべき須要なる事實は、(第一)食物を蒸し若くは煮沸する際に水溶性「ヴィタミン」成分は液汁中に移行しこれが「スウプ」、肉汁として用ひられざる限りハ、斯くして調理せられたる食物ハ「ヴィタミン」含有量極めて減少す、(第二)溶液汁は微弱又は中度等の酸性たらざるべからず、何となれば斯る場合に於ける「アルカリ」の存在は極めて有害なればなり、(第三)加熱の度合及び調理時間の長さは注意せらるべき重要なる事柄なり、(第四)には煮沸、焙燔、炙燒及び「フライ」に揚げる際に於ける酸化の度合が脂肪溶性A竝びに水溶性Cの破壞に直接比例して影響を及ぼすことこれなり。

次表は調理せられざる食料品と調理せられたる食料品との「ヴィタミン」含有量の關係を示せるものなり。

同量の物質に對する抗壞血病(水溶性C)「ヴィタミン」の比價

新鮮なる「レモン」若くは「オレンジ」の汁生のまゝ	一〇〇
新鮮なる甘藍の葉若くは汁(生のまゝ)	一〇〇
同前攝氏百度にて二十分間調理せるもの	三〇
同前攝氏七〇乃至八〇度にて七十分間調理せるもの	一〇
新鮮なる Swede 若くは蕪菁(生のまゝ)	六〇
新鮮なる「トマト」(生のまゝ)	六〇
新鮮なる豌豆(生のまゝ)	三〇
攝氏百度にて三十分間調理せる馬鈴薯	七・五
新鮮なる人參の汁(生のまゝ)	七・五
新鮮なる甜菜の根の汁(生のまゝ)	七・五以下
新鮮なる恬菜の汁(生のまゝ)	七・五
乾かした豆類(生のまゝ)	七・五
新鮮なる牛乳(生のまゝ)	一乃至一・五
發芽せる豆類(生のまゝ)	三〇

貯藏の影響竝びにその他の重要因子

野菜及び果實を貯藏するときは酵素の變化が化學的平衡を變化せしむるの結果その中に含有せらるゝ

「ヴィタミン」量は著しく低下す、例へば人參及び林檎は貯藏するときは新鮮なる時よりも「ヴィタミン」含有量著しく低下す、これと同樣に乳汁は適當にこれを煉り速かに冷却せざるときは水溶C「ヴィタミン」を殆ど缺如するに至る、晒せる「ヴィタミン」を含有せる物質の變化の外、尙ほ食料品若しくはその調製品の「ヴィタミン」含有量に對して評價上に注意すべき重要なる因子あり。

「ヴィタミン」は植物によりて合成せらるゝものにして、動物によりては合成せられずと思考せらる、されどこれは水溶性Cに關しては尙ほ疑問に屬せり、「ヴィタミン」は動物組織中には單に一定量を貯藏するに過ぎず、故に動物體はその有せる「ヴィタミン」は大部分は(假令全部ならずとも)これを植物體に仰ぐものなり、尙ほ植物生成の割合及びその終局產物卽「ヴィタミン」の種類は或程度までその利用し得べき媒質若しくはその生成せる土壤中の「ヴィタミン」量に依りて左右せらるゝこと分明せり、例之釀母細胞の成長とその「ヴィタミン」含有量とは媒質中に於ける榮養分とは一定の比例を保つが故に、吾人は斯くして「ヴィタミン」Bに富める釀母と、これに乏しき釀母とを得ることに成功すべし、又土壤の瘦瘠せることは收穫作用の「ヴィタミン」含有量に影響するものにして、例へば紫「ウマゴヤシ」の葉は「ヴィタミン」Aに富めども明に土壤の如何によりて脂肪溶性B「ヴィタミン」を含む量の少きことあり、故にこの飼料によりて飼育せられたる牛の牛乳の品質はこれに對應して又影響せらる、同樣のことは水溶性C「ヴィタミン」につきても云はる、何となれば該「ヴィタミン」は三種族中最も不安定のものなればなり。

これを要するに、適當なる榮養、水蒸氣、日光、氣溫及び空氣等によりて「ヴィタミン」は先づ植物界中に生じ、これより動物界竝びに微生物に供給さるるものなり。而して、植物界に於ける最後の結果は野菜及び果實なり、而してこれらが更に動物若しく

は微生物によりて消費せらるゝときは、若し植物にして「ヴィタミン」を變化し又は破壞せざる狀態にあらざるときは「ヴィタミン」は再び植物界に供給せらるゝなり。

複雜なる問題

斯く「ヴィタミン」につきて吾人の取扱へる事項は極めて複雜なる問題なると共に極めて愼重健全なる考慮を要するものゝ如し、如何なる食料品若しくは物質が「ヴィタミン」A・B・Cを顯著に含有するかに就きてこの物の歷史を豫め知ることなくして廣汎なる結論を下すことの正當ならざることは吾人これを知れり、故に吾人は食料品が消費せらるゝに際して準備せらるゝ時に於ける「ヴィタミン」含有量の關係に關して豫言する際にも愼重の態度を執らざるべからず、尙は更に吾人は、比較的多量の是等所謂「ヴィタミン」の一種若しくはそれ以上を含む物質と雖もその中にこれが消化管中に於て障碍を來し、而して「ヴィタミン」の同化作用竝びに效果をして不可能たらしむるが如き性質を有する特殊物質あることをも考慮せざるべからざるなり。

換言せばこの問題に就きて現在吾人の有する知識の範圍内に於てはこの事柄に對して思慮深く合理的なる態度をとること最も論理的なる意見なるべし。

育兒

乳兒院（上）

ドクトル　三田谷　啓

本會は明治二十何年かに既に乳兒院を創設して模範的に合理的育兒法を實行し、大に我國の育兒事業に貢獻する所あらんとしたが、當時は未だ世間がその事業の如何に必要で有益なるか、又如何なる性質のものかすら理解し得なかつたので、遂に業半ばにして廢止するの止むを得ざるに至つた歷史をもつて居る。今にして之を思へば如何にも殘念な事で、若しこれが今日まで繼續し得たなら

ば、必ず歐米諸國の有名な乳兒院にも劣らぬ發達を解たここであらうと思はれる。それにつけても現今の乳兒院は、如何なる繼續、如何なる理想の下に經營せられて居るかを大觀する爲に三田谷ドクトルの述べられたこの一篇を掲げて本會員諸姉の御一讀を希望する次第である。

（編者敬白）

乳兒院は乳兒を收容して合理的保育を施すを目的とする設備である。然し現今の如き乳兒院が設けられる前迄には幾多の變遷を經て來て居るのである。

由來

兒童保護の目的で古くより種々の施設が出來て居た。棄兒院、病兒院、兒童宿泊所、孤兒院等の如きものである。最近に及び社會組織の變化に伴ひ乳兒院の必要を生じ、その設備を見ることになつたのである。初めの乳兒院は實際は病兒院に過ぎなかつた。その病兒は多くは急性・慢性・榮養障碍であつた。しかし多數の乳母がなければ到底合理的の治療を施すことは出來なかつた。この乳母を得ることは實際には容易のことではない。そこで乳兒院の成績は特に見るべき著しいものがなかつた。健康の乳兒でも少時の後に病氣になりそして死亡した。死亡の原因となる病氣は多くは榮養障碍、腸加答兒、諸種の傳染病であつた。そしてこの傳染病のうちでも肺炎、百日咳などが主であつて、或種の傳染病が治ると又他の傳染病が始まつて、一難去れば一難來り、まるで傳染病の絶ゆる時はない程であつた。

最近に及んでは傳染病の豫防が出來る樣になつたのと、一つには自然榮養の應用を努める事になつて乳兒院の效果が現れて來た。プロフェッソル、シュロスマン（Schlotsmann）がドレースデンに設立した乳兒院は最も進歩した獨逸に於ける最初の乳兒院であつた。これを模範として他に多くの乳兒院が設けられるやうになつたのである。ドレースデン乳兒院の特徴は乳兒院内が清潔を保たれること、病兒を離して看護すること、乳母の乳を成るべく多く應用すること等であつた。

今日の乳兒院は少くとも次のやうな種類がある。

一、收容の時間から言へば
(イ)晝間乳兒を預るもの
(ロ)日夜連續性に乳兒を收容するもの
二、こどもの健康狀態より言へば
(イ)健康のものゝみ
(ロ)病的のものゝみ
(ハ)健康、病的何れも收容するもの
三、保護者の關係から言へば
(イ)乳兒のみを收容するもの
(ロ)乳兒及びその母をも共に收容するもの
四、乳兒の家庭階級から言へば
(イ)貧民家庭の乳兒のみを收容し又はこれに併せて
(ロ)富者の乳兒をも收容するもの
五、乳兒の榮養より言へば
(イ)人工榮養によるもの
(ロ)母乳又は乳母乳をのみ用ひるか或は牛乳の補給と人乳を用ひるもの

一、設備

乳兒院は現代に於けるあらゆる衞生的方面の要求に伴ふ病院的設備を有して居らねばならぬ。空氣と日光とは十分でなければならない。乳兒室は南向が必要條件である。乳兒院は露臺、臥室、庭園が缺けて居てはならぬ。乳兒一人の空氣容積は一五立方米で事足るであらう。天井は餘り高くない方がよい(三・五乃至三・七米)。乳兒寢臺は一室に十臺を限度とせねばならぬ。大きな室の外に寢臺二三臺を容れ得る小室を具へると便利である。これは隔離室とし又觀察室として用られるのである。室と室との間は硝子戸で壁を設けて見通しのつくやうにして置くのがよい(バルメン、ハイデルベルヒ、ケルンの小兒科「クリニック」、殊にミュンヒェンは極めて立派なものである)。

その他煖房、換氣、清潔、副室、浴場、母親授乳室、厨房、洗濯室、乾燥室、庭園等も單純でよいが目的を達するに十分の條件を具ふることが必要である。

二、監理

乳兒院は專門醫師の監督の下に置かれることが大切である。そして乳兒院を指揮する醫師は小兒科病學の素養あり且つ小兒の生理と病理に通曉し、榮養

療法に經驗ある人が最も適當である。

三、乳母

乳兒院の目的を十分達するには醫師の監督の外、乳母を得ることが必要である。牛乳榮養でも十分注意すればそれで目的を達することが出來るとて乳母の必要なしと唱へる論者もあるが、實際上乳母を得ることは利益が多い。勿論乳兒一人に一人の乳母が附き添えば好都合であるがこれは中々困難である。故に人乳だけで不足の分は牛乳で補給するやうにするのである。乳母を採用するに方つては先づ次の如きことを注意せねばならぬ。

一、遺傳の關係を注意すること。例へば精神病、神經病、黴毒、癲癇、「ヒステリー」、等の遺傳のものは不適當である。

二、乳母の年齡あまり若きに過ぎ老年に失してはならぬ。二十五歲乃至三十歲が適當である。

三、身體は健康で、癩病、精神病、神經病、「ヒステリー」癲癇、黴毒、淋疾、「トラホーム」、疥癬、脚氣、腎臟炎、十二指腸蟲、乳腺炎等があつては素より不適當である。

四、乳汁の檢査を行ふこと。

五、乳母の性質は溫和にして清潔を好み、小兒を愛するものでなければならぬ。

六、乳母は初產より經產の方がよい。

七、乳兒の生兒の健康狀態を檢査すること。

乳母に對しては監督を要するのである。育兒に關する不正の行爲は直にこれを矯正せねばならぬ。又乳母の待遇につきては、(一)乳母は平和にて且つ快活に乳兒の保育が出來るやうにし、(二)運動を適當に行はせ、(三)食事を十分に給し、(四)睡眠を妨げぬやうにし、(五)清潔と規律を嚴守させねばならぬのである。

四、牛乳の供給

乳兒院に牛乳配給所が附屬して居れば最も好都合である。しかし市立牛乳配給所の如きものが他にあればそれを聯絡することが最も安全である。何れにしても最も善良の牛乳を得ることが肝要である。牛乳は最も清潔に保持され、乳兒各個に適當の調合を施したものを與へねばならぬのである。

兒童と消費經濟

棚橋源太郎

私は申したいことが澤山あるが、こゝで申上げるよりは展覧會を見ていたゞくことにして、兒童と衣食住につき申述べると　展覧會出品の中に椽側に硝子障子を以て、四方を圍み、乳幼兒の保育室にする方法が工夫されてをるが、これは少しの經費で非常に結構な考へだと思ふ。又衣服について尋常小學校六學年を卒業するまでに於ける、和洋服の比較が出て居つて、その計算によると、和服よりも洋服を用ひた方が二百圓餘り經濟的にすむことになつてをる、今後不便なる日本服を用ふるよりも敏捷活動の出來る洋服を用ゆることもよいことだと思ふ、この比較品と表とを御覧が願ひたい。次に食物のことであるが子供の辨當の如きも榮養の上からよく考へねばならぬ、これも榮養研究所から、善い惡いの辨當が出品されてをるから御覧を願ひたい。子供の辨當でも梅干でよいなどゝ云はずに十分に研究して榮養を與へる樣に御研究が願ひたい。更にこの外に東宮殿下の御勉學遊ばした「ノート」や鉛筆がある、これが如何によく經濟的にお使ひ遊ばしたかといふことを子供樣方にも御覧になる樣にお願したい、これは子供の經濟思想を養ふ上によい資料となることゝ思ふ。（日本兒童學會總會演說要旨）

子供の經濟心の養ひ方

倉橋惣三

封建時代では金を儲けることが出來なかつたから、蓄へることのみにつとめたのである。今日では蓄へるといふ消極的方面だけでは駄目だと思ふ。兒童に經濟思想を敎へるとしても合理的に敎へなければならぬ、蓄へることは人間の癖で、これは必すしも大切ではない、これにはある大なる目的がなくてはならぬ、然しこれが如何に合理的であるとは云へ

五年も十年も後の結果を豫想して兒童に敎へたとて何の役にも立たぬ、それ故兒童に經濟心を養はせるには、先づ蓄へさせて、それを忘れない様な手近い時に、蓄へたのがこんなに役に立つたといふ直接の效果が現はれる様にして敎へて行くべきであらうと思ふ。ある儉約をして長い間經て全く忘れてしまつた頃にその效果を說くなどは、最も拙い愚なことゝ思ふ。だから子供に消極的に使はぬ様にさせてから、その熱のさめないうちに、その金を積極的に活用してその效果を實際に見せ、こんなに效果があると敎へる様にすべきである。(日本兒童學會講演會演說要旨)

結核豫防の要點

これは本號講演欄に掲載された遠藤の講演に際し豫め聽衆に配布されたものであります。

◎我國の肺病死亡者年十萬(東京市療養所撰)

△乳兒を保護すべし(乳兒は結核に負け易し)

一、乳兒は結核患者にちかづくるな(隔離の必要)
二、人込みの所や塵多き所へは成るべく乳兒を連れ行くな
三、乳を規則正しく充分に與へよ
四、子守りの結核に用心せよ

△小兒の結核豫防(結核に負けざる體力の養成)

一、勉強も運動も過度にはさすな
二、虛弱の小兒には充分の休養を與へよ
三、成るべく戸外にて遊ばせよ
四、室に居る時は成る丈け窓や障子を開け
五、食事は規則正しく充分に與へよ
六、厚着をさすな、寒さを恐れさすな
七、塵多き處に居らすな
八、夜は空氣の換る室にねむらせよ
九、虛弱の小兒には運動法を選べ、うかと競技をさすな
十、百日咳、痲疹、流感等の手當をよくし、病後の休養を充分にせよ

△大人の結核豫防（潜伏結核を爆發させぬ用心が第一）

一、大多數の大人は既に結核菌を有する潜伏結核者なりと知れ
二、青年期以後の結核は多くは潜伏結核の爆發による
三、之を防ぐには日常の生活を萬事衞生的になさればならぬ
四、大酒、荒淫、其他の夜更かしは體力を甚しく衰へさせ、發病の因となるから必ず愼め
五、不規律の生活、無理な仕事、心配事、寢不足、甚しき粗食等を避けよ
六、塵埃多き室や閉ぢ籠めたる室に寢起するな
七、肺炎、流感、出產等の時及び其後の休養を充分にせよ
八、虛弱者は業務も運動も過劇ならぬ樣に注意せよ
九、戶外にて過ごす時間を成るべく多くせよ
十、居間も寢室も成るべく窓や障子をあけ放て
十一、寒氣を恐れず皮膚を强固にせよ
十二、常に不平を言はず快活に勤勞せよ
十三、日々の攝生を守り、體力を充實せしむれば、抵抗力旺盛にして、潜伏結核爆發せざるのみならず、夫より免疫力を生ずるが故に、外部より侵入する結核菌にも打ち勝つを得るのである

△結核患者の注意（病毒を散らさぬ注意は患者の公德）

一、痰を吐き散らす事なく、必ず痰壺か、濟壜、便所等になせ
二、痰に汚れし紙片などは、燒き棄てるか、便所に投ぜよ
三、咳や、くさめをする時は、紙又は「ハンカチーフ」にて口を掩ひ、決して他人に向てすな
四、夜具、蒲團、衣類は度々日光に晒らし又は洗濯せよ
五、初期に正しき治療せよ、初期なれば殆んど皆全快す
六、療養の途なき市内の肺結核患者は市立療養所（府下豐多摩郡野方村へ申込め）

○肺病の人多ければ國亡ぶ
○療養所へ早くはいれば皆なほる
○完全の療養所、國を富強にす

美に關する眼の手當

バーク

昔より美術家、特に畫家は、眉毛、眼瞼に重大なる意義のあることを唱道して居ります、蓋しこれ等は容貌に甚しき影響を與へるからであります。色濃く、しかも美しく彎曲せる眉毛は、顔貌にいはれぬ優しさと力とを添へるものです。それで、この小さい眉毛も、やはり毛髪と同樣に手を入れるのは非常な慰みであります。

多くの女は、眉毛及び睫毛と云ふものは、只飾のためにくつついて居るのだと思ひ込んで居ます。だが實際はその外に特別の官能があります。卽ちこのために塵の入ることは申すに及ばず額より流れて眼に入らんとする汗まで防ぎます。

形のよき眉毛をつくるには、釣合のとれた、とれないが第一の問題であります。生れつき、不恰好な、形の調はないものがありますならば、それに對する種々なる方法があります。そしてよく注意して是を行ふやうにしたならば、顏の容子は全く見違へるやうになります。

先づ第一の方法としましては、氣にくはない毛を、毛拔(特にその目的で造られてあるもの)を以て拔き取るのであります。もう一つの方法は自分の好むままに剃る法であります。然しこれには商賣人が居ますから、それにまかせるのもよいと思ひます。又除毛劑と言ふものがありますが、是はこの目的に用ゐるべきものではありません。一寸注意のため申して置きます。

又眉毛に「ブラッシ」をかける場合には、毛の生へて居るなりに、ならふのが肝要であります。毛は二つの方向に向つて生へて居ます。即ち一つは上から斜に下に向つて、一は下から斜に上に向つて居るのであります。それ故に、「ブラッシ」をかけるには自然の方向にしたがつて上からなで下すと同時に下からもなで上げねばなりません。逆の方向からするやうな事があつては、凸凹になつて、後で美しくしやうとする時に困難を感じます。

又指先に僅ばかりの「ワゼリン」をつけまして、よくなでつければ美しく艶ある、健康な狀態にある根を保つことが出來ます。

睫毛の健康は眼の善し惡しに大なる關係があります。今日は俗に言ふ逆睫毛(生ずべき所でないところに生ずるもの)なるものを拔きとる法がありますが、これは是非專門家の手をわづらはさねばなりません。各々の睫毛をよく檢査して、少しでもよからぬ狀態にあるものは、速にぬき去るのが當然です。然し決して狹み切つたりしてはなりません。

又「ワゼリン」をもつて睫毛をならすのも一法であります。これは床につく直ぐ前にやるのがよからうと思ひます。方法は指先に少量の「ワゼリン」をつけ

睫毛を下から上になであげるやうにして塗布するのであります。そして絶えず規則正しく操り返せば、所謂一般婦人の好む、自然彎曲の而も自然の儘のよりも一層黑きものになること疑ないのであります。睫毛の中には丁度毛髮の樣に自然に脱落するものがありますが、疾病の無い限り常に新しいのが生へ變ります。醫學者の言によりますと健全なる睫毛の生命は約二月だそうです。この睫毛も他の毛と同樣に根より成長するのであります。それ故に根部を大切にしなければなりません。

眼瞼

眼瞼の炎症と云ふものは見ては體裁が惡く、それのみならず、睫毛に非常な害を與へます。かゝる場合には溫き牛乳「ワゼリン」などを適用すれば苦痛を和げ、又實際に有利なことであります。

眼瞼の腫れた場合には「マッサージ」を行ふがよろしい。この時に注意すべき事は眼球を壓迫しないと云ふことであります。そしてやはり指先で靜に行ふのであります。

又屢々眼を休ませることが肝要であります。最後に眼が他の四感以上に、いつも緊張して働いて居ると云ふことゝ、その生命を保たしむるには大いなる注意を要すると云ふ事を忘れなさいますな。

容色に關する齒の注意（承前）

ニューボルト

琺瑯質は美しい、三稜形の細胞より成るものでありまして、大部は石灰鹽類であります。それで石灰分の少ない食物をとれば齒は軟くなり、又鑛物質に富む食物——野菜——果物——を程よく攝れば琺瑯質の助になります。

象牙質は丁度骨のやうなもので、琺瑯質の損じない限り害はるゝことはありません。この象牙質には多くの美しい大小の管があり、又中央部には髓腔、血管、夥しき神經等がありまして齒の發育に關係

があります。この髄質は通常神經と言ひまして、琺瑯質と、象牙質とに被はれて居る時は安全であります。

次に歯の衛生をお話し致しませう。その秘訣を一口に申せば「歯を奇麗にしなさい」――これだけであります。

歯の普通の疾患は齲歯であります。齲歯とは歯質の逐次崩解でありまして、食物の口中に殘るに因するものであります。即ちこの殘留食物は醱酵し、醱酵物は酸に變じ、酸は腐敗を至すのであります。中には勿論口中を奇麗にしても酸の多い人はありますが、大方は口中に殘留せる食物の醱酵によるものであります。

それで最もよい方法としては毎日流ふこと、即ち注意してよく磨くことであります。これを等閑に附して顧みない人もありますが、少くとも一日一回は之を行はねばなりません。これは云ふまでも無い事ですが、一家の人は各々揚子を持つことであります。そして使用後は吊して置くのが最もよいのです。蓋し空氣を通はして新鮮にする爲です。

磨く際は快捷に數分間續けます。そしてその時は優良なる歯磨粉を用ゐた方がよろしい。又毎食後若し一人だけならば(人の前では無作法だから)小揚子を使ひなさい。然し堅い物で堀つてはいけません。

最後に歯を害した場合には速に歯科醫に相談なさるが肝要です。醫者は相當の手當をして呉れます。

そうすれば、たとひ人の前でも、口をかくして笑ふ必要も無く、美しき髪と美しき皮膚と調和して、あなたの美の一部となりませう。



○正月の寒さ

今年の正月は例年よりも寒氣が嚴しいと思ふてゐ

たら、去る五日の新聞にも左の如き記事があつた。

去る二日がこの冬になつて初めての寒さと思つたら四日はそれ以上で東京午前六時の温度は氷點下六度、同七時は六度六分で實に大正七年一月九日の氷點十八度二分以來の寒さだ九州方面の温度は稍上つてゐたがまだ氷點下で全國各地共今尚氷點下である。

○佛蘭西の子福者勳章

佛蘭西では一生懸命に産兒奬勵を實行してゐるが、近頃政府から勳章を授けられた子福者がある。それは佛國ムーランの一農婦で十五人の子を産み、其中十四人は現に農業に從事しつゝあると云ふので、去年十月二十二日農業大臣の手より勳章を授けられ、全佛國婦人の則るべき好模範であると賞讃された。幸ひ我國には斯の如き婦人は未だ決して稀しくない、何處の村にも數人位は居る。只何時か佛蘭西の如き狀態にならねばいゝがと懸念されるのみである。

○年賀郵便

郵便局で聞いて見ると舊臘特別扱ひをした年賀郵便は元旦の午前零時から同零時半までの間に日本橋局を筆頭に市内十三局だけ零時便即ち臨時便を一齊に出したがこの零時便の配達總數は八百四十二萬二千五百六十一通でそれから更に第一號便を市内外の二十七局から發送したがその數二千六百五十四萬三千五百八十八通でこれに零時便と稱する臨時便を併せる時は正に三千五百九十六萬六千百四十九通の多きに達し、これを昨年元旦の臨時便即ち不時便と第一號便の配達總數三千二百四十二萬七千百四十九通に比較すると去年よりも三百五十三萬九千通を増し、約一割からの増加を見てゐる。

半賀
半悲

佐渡拾八年　竹中成憲

私立大日本婦人衛生會役員氏名

大正十二年一月二十二日印刷

大正十二年一月二十五日發行

東京市本郷區駒込千駄木町五十八番地

編輯者兼發行者 莊司秋次郎

東京市本郷區駒込林町百七十二番地

印刷者 柴山則常

東京市本郷區駒込林町百七十二番地

印刷所 合資會社 杏林舍

東京市本郷區駒込千駄木町五十番地

發行所 私立大日本婦人衛生會事務所

（振替東京一〇六〇〇番）

賣捌所

東京市本郷區龍岡町 吐鳳堂

同市銀座三丁目 東海堂

同市京橋區鈴屋町 目明堂

同市同區龍岡町 南江堂支店

同市芝區愛宕町 明文館

京都市寺町二條南入 若林茂一郎

東京京橋元數寄屋町 北隆館

同市神田區表神保町 東京堂

同市本郷區本富士町 盛春堂

名古屋市榮町六丁目 丸善書店